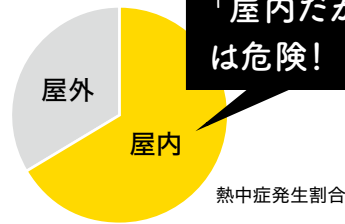


多発! 屋内での熱中症に嚴重注意を

熱中症というと屋外のイメージがありますが、実は発生の約3分の2が屋内。特に高齢者の方は要注意です。



「屋内だから大丈夫」は危険!

気付けば室温が30℃以上に…!

救助に駆け付けた際、驚くほど室内が暑いケースも。暑さの感じ方には個人差があります。体感ではなく、温湿度計で管理をしましょう。

室温は28℃以下、湿度は70%以下が目安です!

発生のピークは7～8月

暑さが本格化するこの時期は、特に注意が必要です。節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようにしてください。

我慢せずエアコンを活用しましょう!

高齢者は特に水分補給を

屋内での熱中症は60代以降の方に多く見られます。暑さや喉の渇きを感じにくくなるため、水分補給がおろそかになりがちです。

喉が渇いていなくても、小まめな水分補給をしましょう!



命を守る“戦う服”! 消防服 のひみつ

火災現場や災害対応の最前線で活躍する消防隊員たち。彼らの体を守り、動きを支えるのが特殊な機能を備えた“戦う服”です。普段はなかなか見ることのできない、消防服のひみつに迫ります。

消防隊

活動服



消防隊員が通常着ている服で、出勤の時はこの服の上に別の服を着て現場に向かいます。仮眠時もこの服のまま仮眠を取ります。

防火服

消防隊員が火災などの災害へ出勤する時に着る服です。この服は熱に強く燃えにくい素材で作られていて、とても頑丈です。



救助隊

救助服



レスキュー隊員が着る服で、現場でどこからでも目立つようにオレンジ色をしています。他の服とは違い、厳しい現場活動に耐えられるように肘や膝などには補強がしてあります。

潜水服

海や川などで水難事故が発生したときに、潜水隊員が着る服です。ウエットスーツやマスク、シュノーケル、フィン、空気ボンベなどを着けて、水中で長い時間活動できるように作られています。



救急隊

救急服



救急車に乗る救急救命士や救急隊員が着ている服。色は清潔感のあるグレーを基調としています。

感染防止衣

救急現場では、予期せぬ感染症から自分の身を守るために、上下青色の感染防止衣、ゴーグル、マスク、手袋を着用します。



安芸高田 歴史紀行

あきたがた
れきしきこう



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 古川 恵子

シリーズ
「博物館コレクション」
第31回

千人針 歴史民俗博物館蔵

表



横 102.3cm 縦 20.8cm

裏

千人針とは、千人の女性が木綿の布に赤い糸で糸止めの玉を千個作ったもので、出征する兵士が身に着ければ敵の弾除けとなるというお守りのようなものでした。

玉止めで「必勝」「武運長久」「大和魂」といった文字をかたどったものや、「虎は千里往つて千里還る」という故事に兵士の無事帰還への願いを重ね、虎の図柄に仕上げたものもあります。

また寅年の女性は強運と考えられていたように、寅年の女性のみ年齢の数だけ玉止めができたようです。

日露戦争(1904～1905年)ごろから始まったようですが、戦局が悪化すると千人の女性にお願いすることが難しくなったことや、赤い糸が手に入らなくなったため、作られなくなったようです。

写真の千人針は旭日の図柄に玉止めし「祈武運長久」と書かれています。中央に五銭と十銭の硬貨が縫い付いてあるのは、「死線(四銭)を超える」「苦戦(九銭)を超える」の願いが込められているためです。裏には中央に3cm×6cm程度の布が別に縫い付いてあり、その中には厚紙のようなものが入っています。千人針に付けることがあるお守りなのかもしれません。

この千人針は1943(昭和18)年、満州(現中国東北地域)で病いによつて亡くなった兵士の遺留品として、遺骨とともに家族のもとに戻されたものです。